

8 . 謝辞

本報告書はTrans African Highway Northern Corridorルートの道路劣化に対するさまざまな問題点を調査研究するもので、ケニア・タンザニア・ウガンダの広域的な調査を行うことから、筆者自身の調査能力の真価が問われる要素を持っていた。

近年、タンザニアやウガンダ国内の状況が目まぐるしく変化する一方、調査が進むにつれ、筆者がジョモケニヤッタ農工大学のJICA長期専門家であった1993～2000年に収集した資料・データが形骸化していたことが判明した。ウガンダにおいては、幸いにも多くの情報をウガンダ政府のホームページからアップデートすることが可能であった。タンザニアの場合は、JICAタンザニア事務所の小林知樹所員の手助けによってタンザニア道路セクターの現状を把握することができたことに心から感謝の意を示したい。また、草稿段階で小林所員が所有する多くの資料・データ・コメント等の転載・抜粋方法について不手際があったことに、深くお詫びを申し上げたい。JICAケニア事務所の川野邊所員からはケニア国内で行われたドナー会議に関する資料を用意していただき2000年以降の動向を把握することが可能となった。報告書草案段階で国際協力研修所調査研究第2課の職員をはじめ多くの方々から建設的な助言を賜り、当初の「調査研究計画書」範疇外側の不鮮明な事柄が多少なりとも明確に記述できたことは、本報告書のシェイプアップに寄与したこととして明白であり、厚く御礼申し上げます次第である。

最後に、私事でたいへん恐縮であるが、2002年9月より本日まで、多くの休日・祝日を報告書執筆時間にあてることは、妻と家族による「無条件応援団の全面的サポート」がなければ不可能であり、本報告書を捧げることをお許しいただきたい。